

総合的な探究の時間における リーダーシップ教育の効果検証

学籍番号 239309
氏 名 上垣内大揮
主指導教員 鈴木真由子
副指導教員 棟形康平

1. 背景と目的

中央教育審議会によると、9 年間を見通した新時代の義務教育の在り方の基本的な考え方として、多様性を尊重する態度や互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなどの人間性等を育むことが重要であるとしている（2021、「令和の日本型学校教育」の構築を目指して）。また、高等学校段階においても義務教育段階の内容に加え、発展として社会の変化に対応しながら自己のキャリアを形成するためのリーダーシップを育むことが求められている。

以上のことに加え、実習校が目標とするリーダーシップのある人材の育成のため、総合的な探究の時間においてリーダーシップ教育を実践し、生徒のリーダーシップに対する意識がどの程度深まり、身についたかを調査を通じて分析し、リーダーシップ教育の効果検証を行うことを目的とする。

2. 研究方法

先行研究をもとに総合的な探究の時間で採用するリーダーシップ理論とリーダーシップを定義し、①実習校に合わせたリーダーシップ教育の方法を開発した。次に、②2年生への本調査の前にプレテストとして3年生にアンケートを行い、アンケート項目に読み取りづらい点が無いことを生徒に確認した後、④筆者が担当する総合的な探究の時間のクラスでリーダーシップ教育を実践した。その前後で（③⑤）意識の変容を見るためのリーダーシップに関するWebアンケート（「1. そう思わない」～「4. そう思う」までの4件法）と⑥リーダーシップ教育に関する内容を含む日々の授業での意識について筆者が担当したクラスの生徒にインタビュー調査を行った。最後に、⑦調査で得たデータを分析し、リーダーシップ教育の効果検証を試みた。

表 1 研究の流れ

①実習校に合わせたリーダーシップ教育の開発
②3 年生にリーダーシップに関する Web アンケートを実施（プレテスト）
③2 年生にリーダーシップに関する Web アンケートを実施
④筆者が担当する総合的な探究の時間のクラスでリーダーシップ教育を実践（12 名）
⑤2 年生にリーダーシップに関する Web アンケートを実施（2 回目）
⑥筆者が担当するクラスの生徒に対するインタビュー調査（4 名）
⑦リーダーシップ教育の効果検証

3. 結果と考察

リーダーシップ教育として、自身の振り返りと他者からの評価とのズレを無くすことが肝要であったため、毎回の授業で生徒同士が同じグループ内で、授業中の活動についてお互いの良い点を記入したフィードバックシートを相互に交換する活動（以下、相互フィードバック）を行った。フィードバックシートは生徒同士でフィードバックする難易度を下げるため、日向野（2018）を参考に SBI モデルを採用した。また、生徒が受け取ったフィードバックシートは筆者が管理する Google Classroom に各自フィードバックされた内容と自身の振り返り等を入力した。入力された内容は次の授業までに筆者が確認し、筆者からもフィードバックを行った。この活動を繰り返すことで生徒のリーダーシップに対する意識の向上を図った。

フィードバックシート（例）
____月____日
__組__番
氏名__〇〇〇__
相手の名前__〇〇さん__

ポジティブフィードバック	
S（状況）	意見があまり出ずに話し合いが行き詰った時
B（行動）	文献を読んで新しいアイデアを探し、意見を出してくれて
I（影響）	行き詰っていた課題を別の角度から見直すきっかけになった。

図1 フィードバックシートの例

アンケートの分析にあたっては4件法の回答を得点化してデータとして用いた。リーダーシップ教育対象クラスとその他の2年生クラスの比較において、有効回答数が少なく、リーダーシップ教育による意識の向上の有意な差は確認できなかった。また、リーダーシップ教育対象クラスの12名のうち、2回のアンケートに回答した6名の結果をインタビューの内容と関連付けながら分析した。結果、相互フィードバックやフィードバックシートを記入する際に他者をよく観察する意識、グループ活動として様々な役割を経験させる働きかけがリーダーシップの意識向上に繋がる可能性が明らかになった。リーダーシップ教育として、生徒による相互フィードバックがリーダーシップに対する意識の向上に欠かせないものであると考えられた。

しかし、相互フィードバックは、フィードバックに対する生徒間の熱量の差で適切なフィードバックが受けられない、他者の長所から自身についての振り返りまで繋がっていない等の課題も浮き彫りになった。

この課題に対して、生徒間のフィードバックによる振り返りだけではなく、先生によるフィードバックが有効ではないかと考えられた。インタビューの語りから先生によるフィードバックが生徒の自己認識を高め、生徒の行動の改善に貢献する可能性を実感した。先生からの言葉を受けて次の授業では意識的に行動することや普段のフィードバックでは実感しづかった自分の長所を先生がフィードバックシートをまとめた分析シートを提示することで客観視することに結びつき、自己肯定感を高める例も見られた。以上のことから、生徒間の相互フィードバックに加え、先生によるフィードバックやサポートがより生徒のリーダーシップに対する意識の向上と実践に繋がると示唆された。

参考文献

- ・日向野幹也（2018）『高校生からのリーダーシップ入門』ちくま書房
- ・舘野泰一・高橋俊之（編著）・中原淳（監修）（2018）『リーダーシップ教育のフロンティア 研究編』北大路書房